

# 土浦市総合交通体系調査概要

日本一住みやすいまちづくりのために



土浦市



これからの交通体系は、これまでの自家用車依存型から、人や環境にやさしい公共交通を評価することが求められています。また、急速な少子・高齢化や様々な交通問題に対応し、活力のある土浦市のまちづくりを支援する環境負荷の少ない持続可能な交通体系の確立が必要です。

本調査は、土浦市の将来の交通政策の目標や基本的な方向性を示すものです。

## 基本理念

土浦市の総合交通体系の基本理念を次のように定めます。

### 人と環境にやさしい 活力ある交通体系の構築

～日本一住みやすいまちづくりのために～

理念を構成するキーワードについて

#### ○人にやさしい

子供から高齢者まで、また、住む人だけでなく訪れる人を含む全ての人にやさしい安心・安全な生活環境・交通環境

#### ○環境にやさしい

環境問題に対応した自然と都市の共生

#### ○活力ある

都市間競争と連携の中で魅力的で元気なまち



朝日峠展望公園



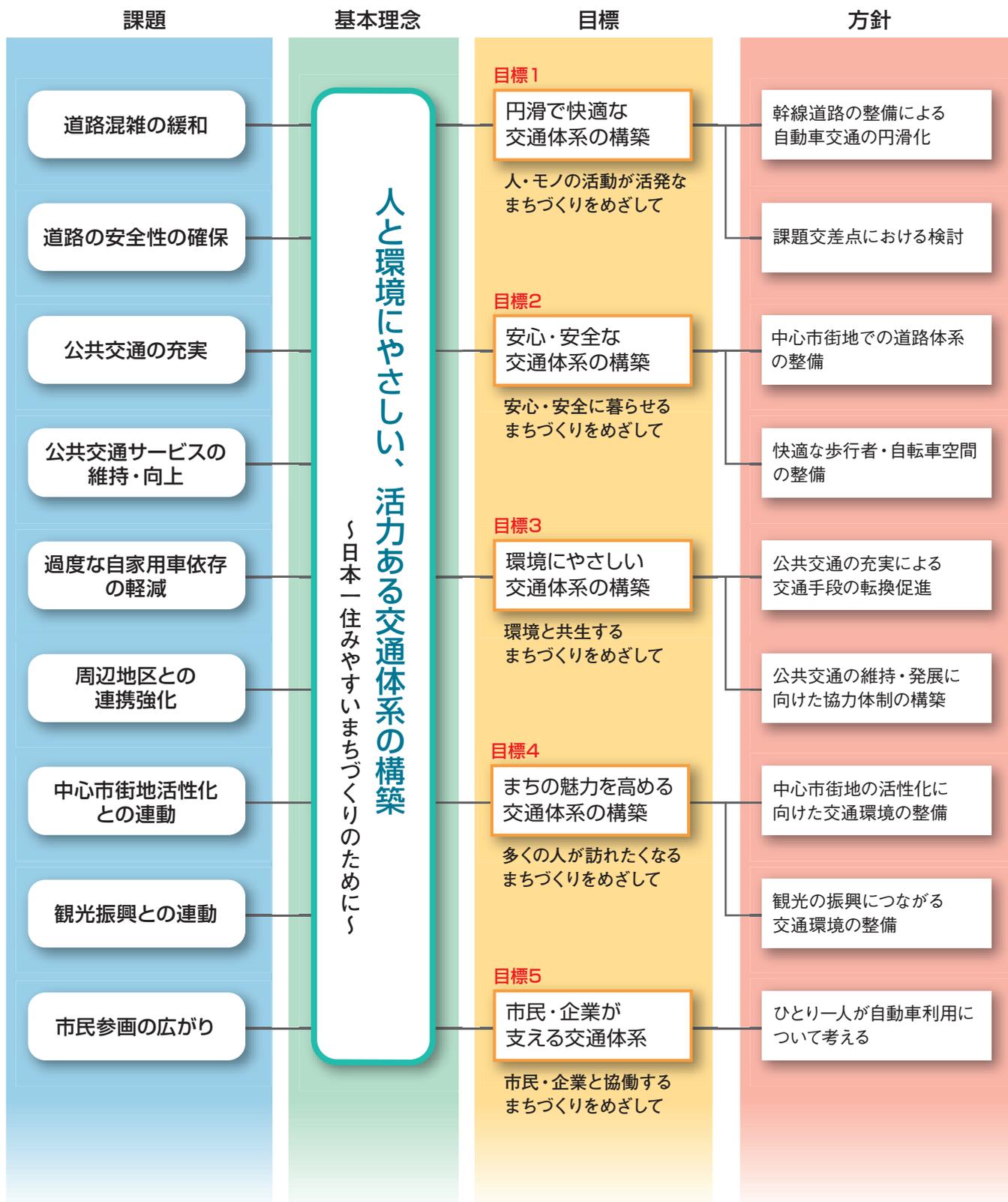
土浦駅前

こうした理念のもと、「日本一住みやすいまちづくり」実現のための交通体系を構築していきます。

短中期的（概ね10年）に取り組むべき施策の方向性について、アクションプログラムに取りまとめています。

# 基本理念と目標、方針

## 土浦市総合交通体系の実現に向けての系統図



◆本調査の内容は土浦市のホームページに掲載のほか、土浦市役所、各市内支所・出張所、地区公民館で閲覧できます。

# 交通体系の目標

5つの目標が総合的に連携し、市民・企業・行政が真に協働することによって、基本理念である「人と環境にやさしい、活力ある交通体系の構築」を実現することができます。

## 目標1 円滑で快適な交通体系の構築

人・モノの活動が活発なまちづくりをめざして

### ◆幹線道路の整備推進・促進

- 都市計画道路や広域幹線道路の適切な整備を推進・促進しながら、また高速道路の活用をはかるなど、幹線道路体系の効果的な運用を検討していきます。

### ◆課題交差点における検討

- 渋滞の多い交差点の改良について検討を進め、混雑の解消をはかります。

## 目標2 安心・安全な交通体系の構築

安心・安全に暮らせるまちづくりをめざして

### ◆中心市街地での歩行者・自転車空間の整備検討

- 中心市街地の道路体系を整備し、歩行者や自転車などを中心とした人にやさしい交通体系の整備を進めていきます。
- 快適な歩行者・自転車空間の整備を進めるとともに、交通管理施策\*1 などにより、限られた交通空間の効果的な活用も検討します。
- 賑わいの土浦駅西口と水の憩いの駅東口の東西連絡を強化します。

## 目標3 環境にやさしい交通体系の構築

環境と共生するまちづくりをめざして

### ◆公共交通の体系化

- 鉄道、路線バス、キララちゃんバス、のりあいタクシーなど公共交通のネットワークを強化し、誰でも快適に移動できる公共交通システムの形成をめざします。
- 利用者の協力と関係者による継続的な協議により、公共交通の体系化とサービスの充実について検討を進めます。

## 目標4 まちの魅力を高める交通体系の構築

多くのひとが訪れたいまちづくりをめざして

### ◆中心市街地の活性化

- 駐車場案内システムの活用や観光バス駐車場の整備、案内情報の充実などにより、市民だけでなく来街者にとっても便利なまちづくりを進めます。

### ◆観光・レクリエーション機能の活性化

- 歩行者・自転車道の整備とネットワーク化を進め、徒歩や自転車で快適に回遊できるまちをめざします。
- 霞ヶ浦の水辺空間を楽しむことができる水上交通の環境整備を検討します。

## 目標5 市民・企業が支える交通体系

市民・企業と協働するまちづくりをめざして

### ◆かしこい車の使い方の展開

- 持続可能な交通体系の確立に向けて、市民ひとり一人がかしこい車の使い方について考える機会を増やしていきます。
- 省エネ運転について学び体験できるようなイベントを検討します。

\*1) 交通管理施策

交通の安全や円滑化を図るために、規制（中心市街地における一方通行化など）による交通の運用方策のことをいいます。

# 土浦市総合交通体系の課題

- 限られた財源の中では、整備効果や必要性を十分に踏まえた上で、道路整備計画の事業見直し・優先順位付けが必要となる。
- 個別の路線に着目した検証（他の道路との関係性等）が必要である。
- “需要”と“供給”のバランスを検証しながら、道路ネットワーク全体の再検討・再構築が必要である。

- 主として国道6号などの幹線道路において、引き続きバイパスの整備や交差点改良などによる道路混雑の緩和が緊急の課題となっている。
- 一定の旅行速度の確保に配慮した渋滞解消策の検討が必要である。

- 都市の魅力向上の視点から新治地区や周辺地区の広域交通基盤との連携強化は重要な都市課題である。
- つくば駅のあるつくばセンター地区と土浦中心部との交通基盤面での連携強化が必要である。

- 常磐自動車道の活用を中心とした通過交通の市内流入を減少させる取り組みが必要である。

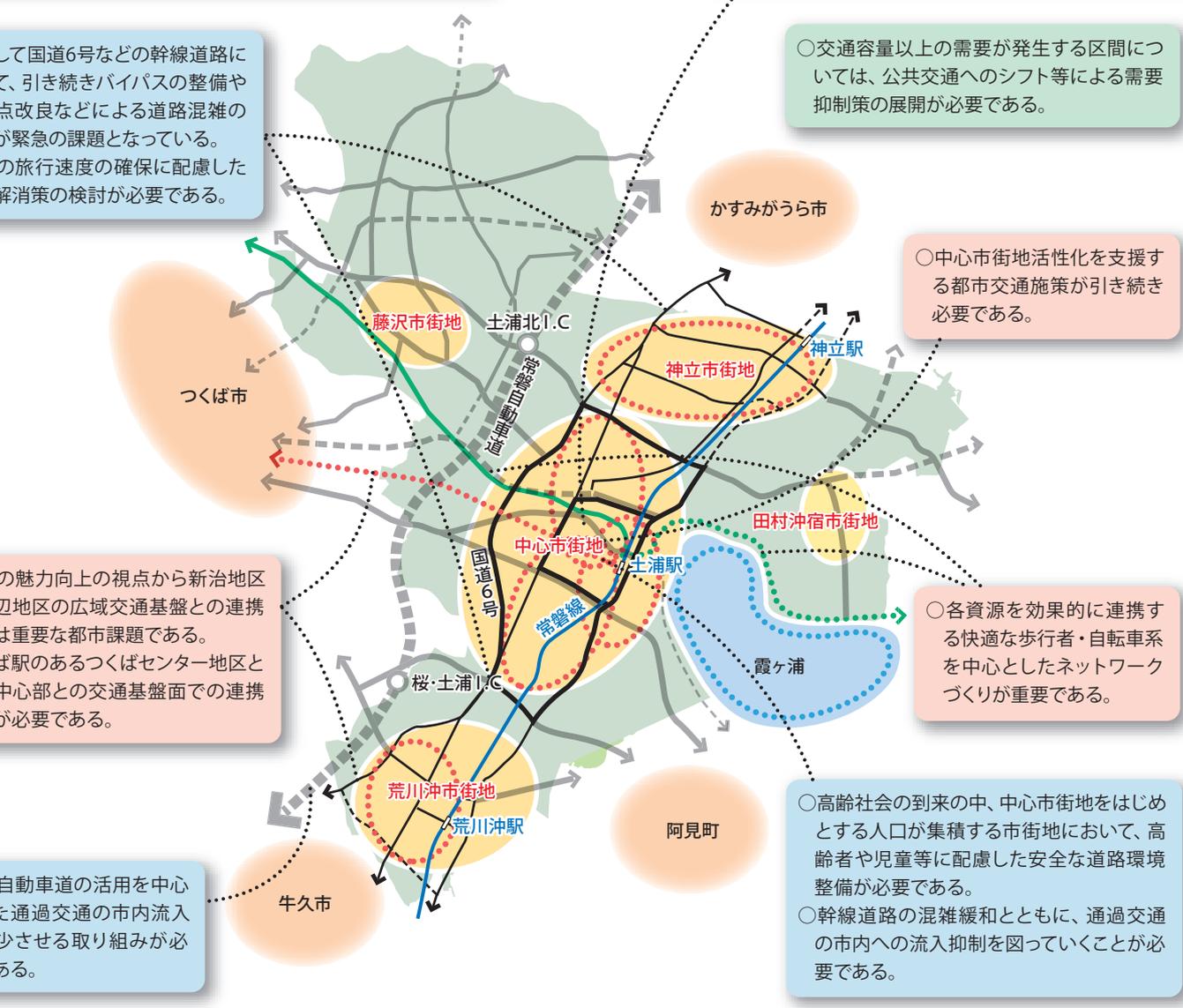
- 運賃の低減や運行本数・利用ルートを増加などを実現させ、市民の公共交通利用を促し、公共交通の充実を図る必要がある。
- 高齢者の容易な移動性を確保する公共交通の充実が求められている。

- 交通容量以上の需要が発生する区間については、公共交通へのシフト等による需要抑制策の展開が必要である。

- 中心市街地活性化を支援する都市交通施策が引き続き必要である。

- 各資源を効果的に連携する快適な歩行者・自転車系を中心としたネットワークづくりが重要である。

- 高齢社会の到来の中、中心市街地をはじめとする人口が集積する市街地において、高齢者や児童等に配慮した安全な道路環境整備が必要である。
- 幹線道路の混雑緩和とともに、通過交通の市内への流入抑制を図っていくことが必要である。



道路面での課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>— 広域幹線・地域幹線道路ネットワーク（整備済及び計画決定済／構想）</li> <li>— 中心市街地環状道路ネットワーク（外周・内）</li> <li>— 荒川沖・神立市街地環状道路ネットワーク（整備済及び計画決定済／構想）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>— 自転車系ネットワーク（整備済／計画）</li> <li>— 公共交通ネットワーク</li> <li>— 水上交通ネットワーク</li> </ul>
公共交通面での課題		
まちづくり面での課題		

# 目標1 / 円滑で快適な交通体系の構築

道路の計画的な整備により、自動車交通の円滑化を図ります。

## 道路の整備推進・促進

### 1. 都市計画道路の整備推進

- 都市計画道路網の整備や見直しにより、より効率的な道路整備を進めていきます。

### 2. 幹線道路交通の円滑化

- 地域の広域幹線道路である国道6号の4車線化の整備を促進します。
- 自動車交通の負荷の大きい国道6号の混雑解消のため、常磐自動車道への通過交通の転換方策の検討を進めていきます。

### 3. 既存道路網の有効活用

- 地域の円滑な交通が確保できるように、課題交差点の検討をしていきます。



土浦阿見線



駅前川口線

## 課題交差点における検討

現在、課題となっている交差点について、次のような検討をしていきます。

### 1. 右折レーンの延長

### 2. 信号現示パターンの改善検討

- ①右左折専用現示
- ②歩・車分離式信号\*1

### 3. 交差点部のレーン構成の検討

### 4. バス停の適切な設置

### 5. バスベイ\*2 の設置



中貫交差点

\*1) 歩・車分離信号

歩行者と自動車の通行を時間的に分離し、横断歩道を横断する歩行者の安全を確保する信号のことをいいます。

\*2) バスベイ

バス利用者の安全な乗降及び停車中のバスによる本線上の自動車交通の流れに支障をきたさないことを目的として、車道から側方に切り込んだバス専用スペースのことをいいます。

# 目標2 / 安心・安全な交通体系の構築

人にやさしく、楽しんで歩ける良好な歩行環境を整えるなど、安心・安全な暮らしを支える交通体系を構築します。

## 中心市街地での歩行者・自転車空間の整備検討

### 1. 外周幹線道路の整備と居住地域の安全性向上

- 中心市街地の骨格道路体系を整備し、骨格道路の内側は、歩行者・自転車と公共交通を中心とした人にやさしい交通体系の整備を進めていきます。
- 駅を中心にバリアフリーのまちづくりを進めていきます。

### 2. 歩行者・自転車機能の強化

- シンボルロード\*1として都市軸を形成し、この軸を中心とした歩行者動線の整備を進めます。
- 歩行者空間拡充やまちの活性化のために、一方通行化などの交通管理施策を検討していきます。
- りんりんロードや霞ヶ浦自転車道の整備促進を図ります。

### 3. 土浦駅および周辺における東西連携の強化

- 土浦駅近接地で東口・西口を結ぶ連絡道路の強化を検討していきます。
- 土浦駅と水辺空間を結ぶ移動性の改善を検討していきます。

## 中心市街地の交通体系概念



\*1) シンボルロード

歴史拠点や主要施設、鉄道駅などを結ぶ、街や地域のシンボル（象徴）となる道路のことをいいます。

# 目標3 / 環境にやさしい交通体系の構築

公共交通の利用環境の充実をはかり、自家用車に過度に依存しない環境にやさしい交通体系を構築します。

## 公共交通の体系化

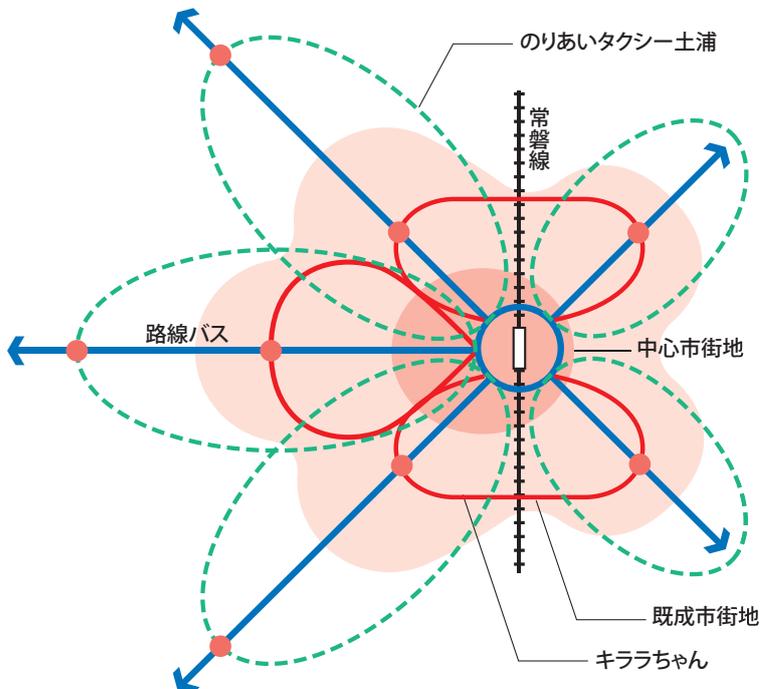
- 公共交通の利便性の向上を目指して、それぞれのサービス特性を活かしたネットワークを形成し、公共交通の体系化を進めます。
- 広域幹線としての鉄道駅、市内の幹線となるバス路線、駅や中心市街地を中心として市街地を面的にサービスするキララちゃんバス、郊外部も面的にサービスするデマンド型\*1のりあいタクシーなど、それぞれのサービスを充実させながら、有機的なネットワークを形成し、かつ円滑な乗り換えができるような結節点の整備を検討していきます。



路線バス



キララちゃんバス



### 1. バス利便性の向上

- 市内の公共交通の幹線として、路線バスの適切なサービスの充実を促進します。
- キララちゃんバスとの連携・活用による利便性向上を図ります。
- 土浦駅中心市街地とつくば中心部を連携するバス路線強化の検討を進めます。
- バスの円滑な運行のため、バス優先レーンや優先信号等の検討を進めます。
- 鉄道駅における利便性の向上を推進し、土浦駅や荒川沖駅、神立駅のバスターミナル機能を強化し、誰もがわかりやすいバス路線・運行情報案内の充実を図ります。

### 2. 短距離移動に応じた新たな公共交通の充実

- 試験運行を行っているのりあいタクシーなど、利用状況を踏まえた本格運行への移行や、短距離移動を支える機能拡充の検討を進めます。

### 3. 常磐線の利便性向上の要請

- 東京駅への乗り入れや車両・運行方法の改善を要請するなど、常磐線の利便性向上をめざしていきます。

### 4. 公共交通利用の促進

- 公共交通の維持や発展のためには、市民・企業など地域のみなさまの支えが必要です。このため、利用促進策の検討を進めていきます。
- バス業者、タクシー協会、行政による協議を継続的に行い、公共交通の体系化とサービス充実の検討を進めます。



のりあいタクシー土浦



常磐線

\*1) デマンド型

利用者の少ない地域への運行や、長時間のバス待ちから解放されるなど、利用者の需要に応じて柔軟に運行するシステムのことをいいます。

# 目標4 / まちの魅力を高める交通体系の構築

住んでいる人や訪れる人にとって、魅力的な交通体系を構築します。

## 中心市街地の活性化

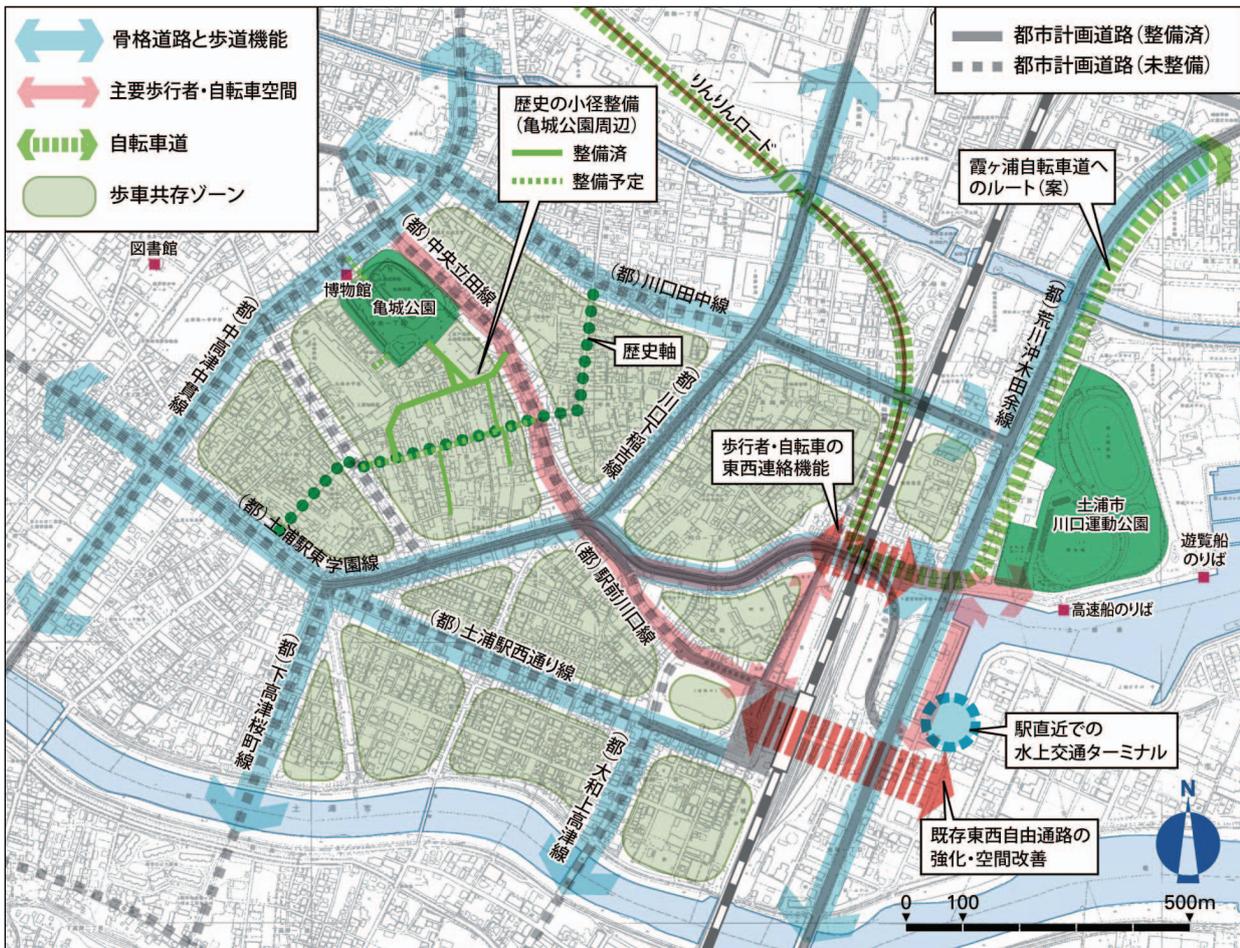
### 1. 駐車場の整備検討

- 駐車場案内システムを活用し、効果的な駐車場利用を誘導するとともに、中心市街地のPR・案内への活用も検討していきます。
- 東口・西口の公共駐車場の有効活用とともに、観光バス駐車場の整備も検討していきます。
- 駐車場から中心市街地までの歩行空間を整備改善することにより、まちの活性化をはかります。

### 2. 高度情報化の活用と案内情報の強化

- わかりやすいバス運行情報の提供による公共交通機関の利用促進を図るために、駅周辺のバス総合案内表示の整備について検討します。
- バスの運行情報をインターネット上へ提供するなど、ITS\*1 を活用した情報提供の充実について検討します。
- 信号の優先制御やバス運行管理システム\*2 によるバスの定時性確保の検討を進めていきます。

歩行者・自転車ネットワーク図



\*1) ITS (高度道路交通システム: Intelligent Transport System)  
カーナビゲーションシステム、高速道路での自動料金収受システム、安全運転を手助けするシステムなど、さまざまな情報技術を用いた交通システムのことといいます。

\*2) バス運行管理システム  
バスの正確な位置情報を把握することにより状況に応じた運行を行うことをいいます。

## 観光・レクリエーション機能の活性化

### 1. 歩行者・自転車道の整備とネットワーク化

- 水辺空間や東側市街地との連携を強化するために、土浦駅東西自由通路の空間改善策を検討していきます。
- 観光客の誘致を図るため、りんりんロードと霞ヶ浦自転車道を連絡する東西連絡道路の整備を検討していきます。
- 歩いて楽しい街にするために、都市軸道路を整備し、交通管理施策の検討を進めていきます。
- 自転車で自由に回遊できる街を目指して、ロングツーリング用の貸し自転車ターミナル、シャワーや休憩施設などを備えたサイクルセンター\*1の整備を検討します。



中心市街地～水辺空間のアクセス



りんりんロード

### 2. 水辺空間の活用

- 霞ヶ浦の水辺空間を幅広く楽しむことができるように、土浦駅と連携する位置に水上交通ターミナルの設置について検討していきます。
- 既存の水上交通の活用をはかるとともに、霞ヶ浦の水辺空間を幅広く楽しめる水上交通ターミナルや桜川に屋形船ターミナルの設置を検討していきます。



桜川



土浦港

\*1) サイクルセンター

駐輪場、レンタサイクル、休憩所などの設備を備えた自転車利用を促進する拠点のことをいいます。

# 目標5/市民・企業が支える交通体系

「人と環境にやさしい活力ある交通体系の構築」のためには、市民・企業・行政が一体となって取り組みを進めていく必要があります。

## かしこい車の使い方の展開

持続可能な交通体系の確立に向けて、公共交通と自家用車のかしこい使い方を考えましょう

持続可能な交通体系の確立には、市民・企業・行政が協働して取り組む必要があります。マイカーから公共交通への転換の機会を増やしたり、環境にやさしい自動車の運転方法を習得するなど、ひとり一人の交通行動が対象だからです。



### マイカーから公共交通への転換についてみんなで考えましょう

- 自動車はとても便利な交通手段ですが、過度な自動車利用は、交通渋滞のほか環境や健康面への影響が懸念されます。
- こうした問題に対して、アンケートを複数回行うなどのコミュニケーション活動を通じて自動車の利用方法を考える新しい交通施策として、モビリティ・マネジメントという施策があります。
- 国内外の事例では、自動車走行距離をおおよそ 10 ~ 30% 削減する効果を持つことが知られています。

### 環境にやさしい自動車利用を実践しましょう

- エコドライブとは、やさしい発進やアイドリングストップなど、環境に配慮した自動車の利用方法のことをいいます。
- エコドライブにより、通常時の運転方法と比較して2割~3割程度の燃料消費量の削減効果があることが報告されています。((財)省エネルギーセンターより)
- 市民ひとり一人が正しいエコドライブの方法を理解できるように、講習会や実技実習の開催を検討し、省エネ運転を推進していきます。

\*1) モビリティ・マネジメント

ひとり一人のモビリティ（移動）が、社会的にも個人的にも望ましい方向（過度な自動車利用から公共交通や自転車等を適切に利用する方向）に自発的に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通政策のことをいいます。

平成19年8月

土浦市